



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第2号

2010年

10月発行



秋の大雪山 旭岳の写真 : 諏訪 撮影

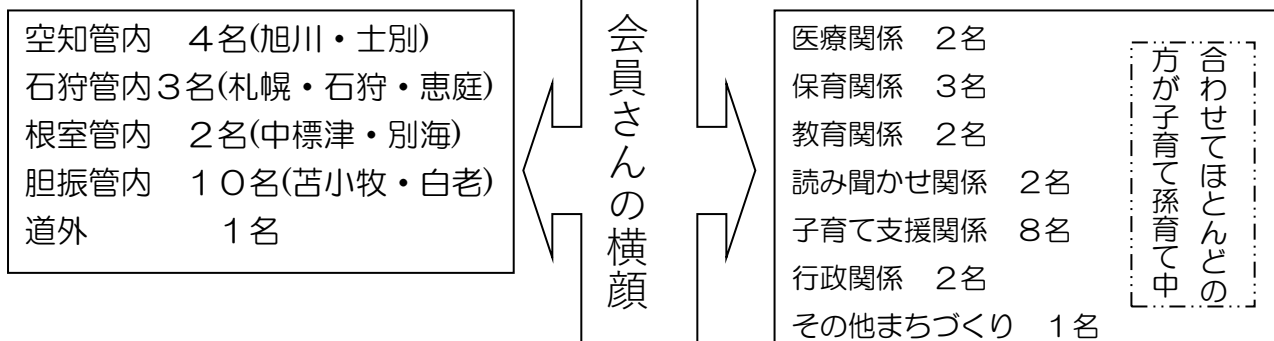
「子どもとメディア北海道」への入会ありがとうございました

会員からのメッセージ紹介	2ページ～
士別市地域づくり研修会子育て講演会報告	
講師NPO子どもとメディア代表理事 山田真理子先生	4ページ～
会設立にあたって、各新聞社のみなさまご支援ありがとうございました	6ページ
インストラクターの活動報告・今後の予定	7ページ
会員募集のご案内	8ページ

『子どもとメディア北海道』の入会、ありがとうございました

7月に発行した創刊号を読んで、私たち呼びかけ人の思いに早速応えてくださり、本当にありがとうございました。9月末現在、20名の方が入会して下さいました。まだまだ小さなネットワークですが、さまざまな子ども・教育・家庭支援の分野の方が、「子どもとメディア」の有様に対して危惧されているということがわかり、力をいただきました。

今後は、情報誌を通じてみなさまと意見交換し、また出来れば学習会や交流会を計画していきたいと考えていますので、積極的にご参加ください。



入会の際にいただいたメッセージを紹介します

子どもの環境に莫大に溢れるメディアからの一方通行で無選択無節操な情報、流れる方へ迎合する仮想世界、家族の数も減り親も祖父母も忙しく、人間関係を含む実体験を積む機会も減り、更に予約が無ければ友達と遊べない時代です。

保育園時代もですが、尚一層就学後の環境が不安です。保育園時代にできることは何か、もっと根源的に勉強し、職員と更に保護者と認識を共有し行動していきたいと思えます。入会を希望します。

私が市民活動として『えにわ子ども新聞』発行を始めたのは、携帯に見入ったまま歩く若者やインターネットや携帯でしか人と関われない若者が出現し、そういったネット依存症がどんどん増えるだろうということに危機感を抱いたからでした。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

知らないことだらけなので、まずは親の自分がメディアについて、良い事・悪い事を知りたいです。情報誌を楽しみにしています。(親子一緒に読みたいです)

大変ですが陰ながら応援しています。頑張ってください。

「子どもとメディア北海道」結成は、勇気ある行動だと大きな拍手を送ります。

しゃべらない・笑わない・遊べない子ども救済のため、私も微力を尽くしたいと考えます。

ことばと正常な五感の働きを育むために改善すべき点を明確にして家庭に届くようにしたいものです。

親や教師が変われば、子どもが変わることを信じて、この活動を支えようと思えます。

親子で夜遅くまで「テレビゲーム」をしている様子を聞いていると『子どもの育ち』について不安感を抱いてしまいます。

実際問題として、朝起きられない、落ち着きに欠ける、粗暴な態度により友達とコミュニケーションがとれないなど・・・の様子を伝えても、親の意識は変わりません。

“メディア”について大人は責任ある行動を！！

「子どもとメディア北海道」設立おめでとうございます。意外と華奢な中谷さんから湧き出るパワー、福岡まで行き諏訪さんと出会ってこのように思いを形にすることができたのは、やっぱりすごいです。

メディアについては日頃思うことがいろいろあるのですが、それを理解し合うのはとても難しい事だと思います。

この情報誌を通じて皆さんがどのように感じているのかを知り、メディアと上手に付き合う方法を自分なりに考えていきたいと思っています。

私の予想を超えるパソコンやゲーム、インターネットなどは、子どもたちを夢中にさせる魅力があるのでしょう。

楽しさ、便利さは認めつつも、子どもはほっとくと歯止めが利かないので、うまく向き合う方法を知りたいと思いました。おもしろそうなので入会します。応援しています。

各種の映像メディアとの関わり方・利用の仕方と、ことばを重視(意識)した生活の仕方について、多くの方々に伝えていきたいものです。

助産師をしています。講演の中でもありました「子どもとメディア」については、非常に興味深いものがあり、「子どもとメディア北海道」のサイトを訪ねました。

自分たちはとても多くのメディアに囲まれて生活しており、これからどんどん増えるであろう「携帯世代」のお母さんたちとの関わり方を考えていかなければならないと日々実感しておりました。

今後も研修会などに参加したいです。

みなさんのメッセージを読んで(中谷)

★自由記述でしたのにたくさんのメッセージ、ありがとうございました。どれも共感でき、うなずきながら読ませていただきました。

★メッセージを読みながら強く感じたことは、子どもの発達にかかわっている専門職の方の危機感がひしひし伝わってくるということでした。保育園や学校、保健医療関係の子どもの発達とそれを支える親のかかわりに日々対峙している方が、親の子どもへのメディアの与え方や、親自身のメディアとの関わり方に強い危惧を抱いているということです。

★ちょうど今日、親御さん向けに「子どもの発達とメディア」について話をさせてもらってきたのですが、参加された方々のメディアリスクの感覚が、専門職の方々の感覚とかけ離れていることを改めて感じました。講演会に足を運ばれるくらいのもともまじめで熱心な方々をしても、一般の大人には、子どもの発達についての見識が行き渡っていないことをつきつけられます。

★知らないだけなのです・・・「え、そうなんですか」「今すぐにできることから始めます」と、メディアのリスクを知らなかった人ほど反応してくれました。メディアコントロールがなぜ必要か、どういうコントロールをしていけばよいのかを、就学前のなるべく早い時期に周知していく方法をみんなで模索しませんか？

★そのための情報提供や、学習の機会をまずは情報誌で提供していきたいと強く思えました。

行ってきました！！土別市地域づくり研修会子育て講演会

講師 山田 真理子先生 「NPO子どもとメディア」代表理事・九州大谷短期大学教授

平成22年8月30日(月)
土別市市民文化センター
18時30分～20時30分

子どもの発達ととりまく環境の危機 ～日本の子どもたちは世界一のメディア接触～

1. 子どもたちがおかしい(その1)

- *視線が合わない→自閉症的背景がなくても。コミュニケーションの基本である授乳時の親と子のかかわりが欠落している(授乳時のメディア視聴・使用のため)。授乳時に【ゆっくりゆする・声をかける・さわってもらう】という快の体験を繰り返して、目が合うことが気持ちよいこととなり、目が合うことを喜びと感じる人間へとつながっていく。
- *落ち着きがない→自分の力をコントロールすることができない。
- *話を聞けない→話を聞けるには、イメージできることが不可欠。そのためには想像力と創造力が必要。話を聞く時は音声を聞くだけではなく体の反応(身を乗り出す・耳を傾ける)が必要。そういう体の反応は、人の体に接する心地よい体験(おんぶなど)がないと難しい。人間の力は常時使わないと反応できなくなる。メディア任せの関わりでそれらの体験が激減している。
- *発語が遅い→育児語(ちょっと高音・ちょっとゆっくり・抑揚を大きく)で大人がその子に直接話しかけることで発語が促される。メディア漬けだと聞き流しの中で育ってしまう。(メディアからの言語は、不明瞭で早口、聞き取りにくい、応答性がなく一方的)

2. 子どもたちがおかしい(その2)

- *歩くのが苦手、すぐに疲れる
- *コミュニケーションが成り立たない
- *すぐにキレる、すぐに手が出る
- *表情が乏しい
- *ゲームやケータイが手放せない

背景にメディアとのかかわりがあることを、各種調査資料などを提示して説明された



3. 子どもたちはメディア漬け

- *テレビ・DVD・ゲーム・ケータイ・インターネットの複合汚染
- *怖い、メディア依存

各種調査では概ね
メディア依存が1割
要治療者が 3%

- ・していないと、孤独に感じる
- ・している時の方が、自分がすぐれているような気がする
- ・見ていない間に何かあったのではないかと気になる
- ・止められるとイライラする
- ・気づくと思ったより長時間接している

この数字を「想定範囲内」と言い切る経営者もいるが
大人として、それでいいのでしょうか？

*メディア依存の危険性は、日本の全ての子どもたちに。

自己表現が苦手な子ほど・コミュニケーションの力が弱い子ほど・家族への愛着が弱い子ほど



メディアにはまる(メディアへの依存が強い)傾向にある



であるから子どもたちに、自己表現の力・コミュニケーションの力・家族への愛着を育もう！
ゲームよりテレビよりケータイよりおもしろい 家族機能の改善へのアプローチを！

*大人の知らない大人(暴力とエロ)の世界に子どもたちが落ちていく

子ども部屋のパソコンをフィルタリングをかけずにネットにつなげるのは、「子ども部屋に20人のやくざと5万冊のエロ本を放り投げること」のようなもの

4. 幼児期のメディア接触コントロール

*幼児期からメディア接触コントロールに取り組むことで、小学校高学年以降の「生活リズム」「勉強時間」「対人関係」「自尊感情」とも高い相関を示す

*幼児期から、月に1度でいいから「ノーメディアデー」に取り組むことで、「観なくてもいられる自信」「自分にもできる」という気持ちを育むことができる。

例) 福岡県福津市では、1歳・3歳・就学時にパンフレットを配布し、親への啓発を行っている。

園でのノーメディアデーの具体的な取り組み方

月に1度のノーテレビデー

事前に子どもたちの生活チェックをする 食事中のテレビ・ビデオ、平日・休日のメディア接触時間など
前日に呼びかけをする 「明日はノーテレビデーです。テレビをつけないで過ごしてみましょう」とい

アンケートの内容

- ・ノーテレビは実施できましたか
- ・テレビをつけなかった時間に何をしましたか
- ・テレビを観ないことについてお子さんは何か言いましたか
- ・観ないことで発見したことはありますか など

ノーメディアへの家庭での取り組み

- *テレビにカバーをかける
- *ビデオテープ・ゲーム機は、見えないところにしまう
- *「食事だから消すよ」「観ていないから消すよ」と口に出して消す
- *テレビのコンセントはタイムスイッチにつなぎ、観たい番組が終わればキレるようにセット
- *ケータイは自室に持ち込ませない
- *子ども部屋のパソコンはインターネットにつなげない

山田先生の講演を拝聴して(諏訪)

現場の保育士さんたちに混じて、副代表と一緒にNPO子どもとメディア代表理事山田先生の講演会に参加しました。たくさんの方々が出席されていて関心の高さがうかがわれました。

とても参考になるお話で良い刺激を受けることができました。

強く印象に残ったことばがありました。それは、「メディアへの対策は、ケータイやゲームを取り上げれば良いというものではない。それらを使用するルール作りだけでも不十分。」というものです。大切なのは、低下してる家族機能の改善だということでした。つまり、良好な家族関係を築くことができなければ本当の意味でのメディア対応はできないということだと思えます。

さらに拡大して言えば家庭機能のみならず地域力の復活が必要だということでしょう。これは、メディアへの取り組みだけではなく、子ども達の「人」としての成長や児童虐待の対策など子どもをとりまくあらゆるものに重要だと考えます。

私の目指すもののひとつはまさに地域力の復活にあります。

みなさんも地域力、家族機能の回復について考えてみませんか。

「子どもとメディア北海道」設立にあたって

各新聞社のみなさま、ご支援・ご協力ありがとうございました！！

5月に福岡市でインストラクターの養成講座を受け、「ぜひとも北海道にも・・・」との熱い思いの勢いで会を立ち上げたのですが、はたして賛同して下さる方はいらっしゃるのか不安でいっぱいでした。

インストラクターとしての練習を兼ね、白老町で7月12日に開いた講演会には、お助けネットの仲間が6人ほど参加してくれましたが、一般の参加者は0人。「やはり前途多難・・・」と落ち込んでおりました。ところが、地元の新聞社が3社取材に来て、みなさん最後まで講演を聞いて下さったのです。そして、以下のような記事を掲載してくれました。

ケータイ・ネットのリスクや持った後の使用の仕方についての啓発活動は増えてはきましたが、どちらかというと非行防止の生徒指導的な内容が多いようです。もっと予防的に、メディアを持たせる前に大人として知っておきたい内容の学習機会が必要であることを新聞記者の方々も感じられていたようで、それが大変嬉しかったです。

これからも、1人でも多くの方に一緒に考えていただけるよう活動していきますので、ご支援・ご協力よろしく願いいたします。

会の設立・講演会についての掲載記事

- * 苫小牧民報
- * 室蘭民報・・・講演内容を5回に分け掲載。その後、論説でもとりあげられた★
- * 北海道新聞・・・『教育プラス』としてとりあげられた★
- * 毎日新聞
- * あさひかわ新聞

インストラクターの活動報告・今後の予定

★お近くの方は、ぜひご参加ください。その際はお声かけくださいね。

日時	場所	テーマ	対象	講師	主催
7月12日 18時～ 20時	白老町 子育てふれあ いセンター	親子の対話によるケータイ対応 マニュアル	どなたでも	中谷	白老NPO 法人お助け ネット
9月29日 10時～ 12時	登別市 市民会館	考えてみませんか！電子メディ アと子どもの育ち ～大人にできることは～	保護者 支援者	中谷	登別NPO 法人モモン ガくらぶ
10月5日 10時～ 12時	神楽公民館 (旭川市神楽 3条6丁目)	子どもの発達とメディア	どなたでも	諏訪	旭川NPO サポートセ ンター
10月23 日 13時半～ 15時半	美唄市民会館 0126-6 3-2185	親だけじゃ子どもは育たない ～子育てを支える地域の輪～ (メディアについてもふれます)	どなたでも	中谷	(財)北海道女 性協会・美唄 市
11月9日 18時半～	えりも町福祉 センター	母と子、父と子のいい関係 ～我が家流ナイスパパ・ナイス ママ～ (メディアについてもふれます)	どなたでも	中谷	えりも町幼 児教育振興 会
11月13 日 10時半～1 1時45分	白老町コミュ ニティーセン ター	子どもとメディアのよい関係を つくるために ～大人のできること、すべきこ と～	どなたでも	中谷	白老町青少 年育成大会 実行委員会
11月17 日18時～ 20時	札幌アスティ 45ビル 16階	お父さんフォーラム シンポジウム(19時から1時 間) (メディアについてもふれます)	どなたでも	中谷	北海道

情報誌を読んだ感想：子どもとメディアについてのご意見など、お寄せ下さいませ

★入会時の自由記述を読ませていただいて、みなさまの日頃のお仕事や活動からさまざまな気づきや、「子どもとメディア」についての見識や思いを持たれていることがわかりました。

★今の時代に、紙ベースの情報誌は即応性がなくもどかしいかもしれませんが、それぞれの考えや思いをざっくばらんに出し合いませんか？何かテーマを決めた方が良ければ、考えていきますが、とりあえずしばらくは、自由に投稿していただくとありがたいのですが……。

★投稿に際しては、分量は自由です。今回掲載させていただいたように短めの感想やメッセージでもよろしいです。「子どもとメディア」についての論文なども大歓迎です。投稿していただける方は、所属やお名前を掲

子どもとメディア北海道 会員大募集！！

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス
<http://childmediahk.web.fc2.com/>

会員になると 会議などはありません。ゆるやかなネットワークです。

- ★ 情報誌が届きます（年間4回発行予定）。
- ★ 学習会や交流会にご参加いただけます。

申込方法 入会申し込み用紙にご記入ください

☆同封の入会申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXで事務局まで送信ください。
代表・事務局へのメールでも受け付けます。（申込用紙の必要事項をメールに書いて返信ください）また、会費を郵便小為替で郵送される方は、封書と一緒にご送付ください。
☆入会申し込み用紙の送信と以下の会費の納入の確認をもって、情報誌の発送をさせていただきます。その年度にすでに発行されている情報誌は全て送ります。

会費について 情報誌作成発行・事務費等に当てます

★年会費 2000円

★会費の納入方法は、代表・事務局への手渡し、事務局まで郵便小為替（2000円分）を郵送するかのいずれかをお願いいたします。

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp

入会申し込み

お問い合わせは

こちらまで